

# 中国の大学と連携強化

## 国際教育の推進図る

### 光星学院、近く協定締結



八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)の法  
官廣子秘書室長が12日、同  
市のデーリー東北新聞社を

国立景德鎮陶磁大を訪問し、交換留学の実現などについて大学関係者と意見を交わす法官新一理事長(右から2人目、光星学院提供)

訪れて荒瀬潔社長と懇談し、中国の総合大学などと連携強化に向けた準備を進めていることを明らかにした。11月に法官理事長を团长とする訪問団が西安市などを訪問し、複数の大学や語学学校と学生間の交換留学について意見交換。近く連携協定を結ぶ予定だという。

中国の大学との連携強化は、同法人の創立60周年を

記念して策定した「新立体的総合学園構想」の一環。その中で「新時代の国際教育の研究と実践」を推進すると掲げている。

同法人の八戸学院大教務学生課によると、11月2〜11日にかけて法官理事長ら3人が北京と西安、景德鎮の3市を訪れ、「国立景德鎮陶磁大」(景德鎮市)や「国立西安外国語大」(西安市)などの関係者と懇談した。

国立景德鎮陶磁大は1万6千人以上の学生が在籍。景德鎮市は陶磁器の生産が盛んで、同大は陶磁器技術の研究で国内トップクラスを誇る。法官理事長が寧鋼学長と会談し、学生の相互留学や教職員の交換訪問などの実現に向けて協議を進めることで合意した。法官室長は取材に「今の時代は国際教育の充実が求められている。スピード感を持って対応していきたい」と強調した。(須田山裕太)